◆特集対談◆能代役七夕五町組協議会

能代の夏を彩る伝統行事、役七夕に、平成28年10月1日、「能代役七夕五町組協議会」が設立されました。

今回は初代会長に就任された清若筆頭若長・小野修さんに、協議会設立の経緯と今後の抱負について、お話をお聞きしました。

Q　協議会設立のいきさつをお聞かせください。

役七夕は大町組、上町組、萬町組、清助町組、柳若組の5つの町組が輪番で年ごとの当番を務めております。

■役七夕の五町組

町組	親丁	枝丁
大町組	大若	冨若、下川若、冨新若
上町組	上若	畠若、畠新若、東若
萬町組	萬若	合同若（中若、上川若、羽立若、幸若）
清助町組	清若	合同若（馬若、御若）
柳若組	柳若	新若、出若、本若、新柳若、柳新若、住若、榮若、後若

この表のように、役七夕は、当番に当たった町組が、組内部の親丁、枝丁という秩序のもと、その年の役七夕の一切を取り仕切る体制で現在に至っていますが、一方で、町組間で話し合いを持つ場というものは存在しませんでした。このため五町組全体が、その総意として動くということが、従来は非常に難しかったのです。

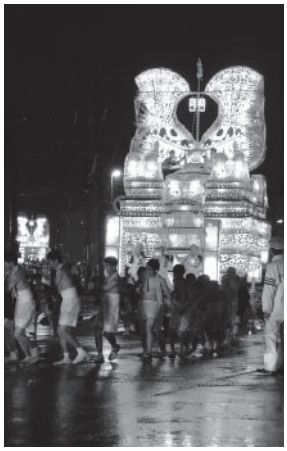
役七夕の運行は8月の2日間ですが、当番を務めるに際して各組は、燈籠づくり、寄附集め、さまざまな儀式の執行と、運行日の1年以上前から準備を始めます。これらを各若が基本的には全て自前で行っているわけですが、各町組とも、町内に住む人の数が減少し、近年の経済情勢から資金的にも、運営は年々厳しさを増しています。役七夕の存続に対する危機感は、各町組の責任者に共通のものでした。伝統の灯を維持継承するために、役七夕全体として、変えるべきは大胆に変え、残すべきはしっかり残す、そうした体制を新たに構築するには今しかないということで、約2年前から話し合いを重ねて、今回の協議会設立となりました。

なお、皆様の御推挙で私が会長を仰せつかりましたが、会長は輪番制で、次期会長は柳若組さんから出されることとなります。

初代会長の小野修さん

Q　今後、どんなことに力を入れていかれますか。

具体的な取り組みは、今後各枝丁にも入っていただいて構成する部会での協議を待つことになりますが、課題は山積です。個人的には、町組同士の協力体制、外部からの人の受け入れ、日本遺産関係の事項といったあたりが当面の課題となると考えています。日本遺産申請については、協議会として、市にも積極的な検討をお願いしているところです。



Q　最後に、小野さんにとって役七夕とは何ですか。

そうですねえ。まだほんのワラシのころ、田楽で出たのが50何年前。以来、シャチ倒し以外は一通りやりました。この町にずっと暮らして来た私にとっては、魂そのものです。この地域で育った皆さんにとっても、それは同じでしょう。これを次の時代を担う若い人たちにつないでいく。我々世代の責任の重さを感じています。

取材：小林秀彦　小野　立